

日本人はどこに住みたいのか？ 何がしたいのか？



写真提供：広島県交流・定住促進協議会 ※写真はイメージであり、報告等の内容とは直接結びつくものではありません

過疎化、高齢化が他地域以上に進展している中国四国地方において、特に、中山間地域の住資源を有効活用した交流・定住を進めていくことは極めて重要であると考えます。こうした中、「定住」にこだわらないさまざまな、「多地域居住」の取り組みが実績を上げつつあります。

このため、本シンポジウムでは、中国四国地方における多地域居住をめぐるさまざまな論点を提供し、今後の具体的な中山間地域における、地域資源の活用や農家民宿なども含む住まいの利活用と交流・定住の仕掛けの提案につなげていきたいと考えています。

このシンポジウムをスタートに 2009 年度このテーマで都市計画研究会を 3 回程度開催します。

2008 年度 日本都市計画学会中国四国支部 都市計画研究シンポジウム

「多地域居住」の可能性を探る

テーマ

日時

2009 年 1 月 31 日 (土) 14:00~17:00

(同会場で予定の、自治体、NPO 等パネル展示は、13:30~17:30)

会場

広島市まちづくり市民交流プラザマルチメディアスタジオ

袋町小学校敷地内 広島市中区袋町 6 番 36 号 TEL 082 (545) 3911

参加

無料 100 人 (先着順。できる限り事前に申し込みください。)

主催

日本都市計画学会中国四国支部 (企画・研究委員会)

共催

日本建築学会中国支部、都市住宅学会中国・四国支部

後援

(予定) 日本建築学会四国支部、土木学会中国支部、土木学会四国支部、
広島県交流・定住促進協議会、広島県建築士会、中国・地域づくり交流会

申し込み方法

FAX 又は e-mail で、お名前、ご所属・住所、電話番号を明記の上、1 月 23 日 (金) までに
FAX 082-245-7629 e-mail miyamoto@ccrc.or.jp までにお申し込みください。(様式自由)

社団法人 中国地方総合研究センター 宮本 茂

〒730-0041 広島市中区小町 4-33 中国電力 3 号館 5 階 TEL 082-245-7900 (代表)

プログラム

第1部 基調講演（60分）

熊野 稔 氏 国立高等専門学校機構「徳山工業高等専門学校」准教授
博士(工学)、技術士(都市・地方計画)、一級建築士。
ふるさと地域力発掘支援モデル事業アドバイザー

「近年の二地域居住への期待と、クラインガルテンの評価と可能性」

○全国の二地域居住の動向と、中国地方の事例である、ガルテンヴィラ大島（山口県周防大島町）、志都の里クラインガルテン（島根県飯南町）などの事例を通じた、課題を探る。

第2部 パネルディスカッション（120分）

報告1 都市住民の受け入れ事業を実施・提供する団体の立場から

小田 博之 氏 NPO法人ひろしまね 副理事長

「都市住民の民泊受け入れ事業を通じて見えてきたもの」

○島根県旧羽須美村等で空き家を改修し、民泊事業活動を展開する中で見えてきた課題を探る。

報告2 都市住民の受け入れ事業を展開する自治体の立場から

小笠原 美穂子 氏 島根県邑南町定住企画課商工観光室

「しまね田舎ツーリズム事業（農家民宿）活動の評価と今後の可能性」

○中国地方内で農家民宿やグリーンツーリズムに積極的に取り組む自治体の事例から課題を探る。

報告3 過疎高齢化が進行する集落を守る住民の立場から

大知 一也 氏 広島県・安芸太田町空谷(そらだに)を考える会相談役

「出身集落と都市部住宅団地の二地域居住の実践の評価と今後の可能性」

○過疎高齢化が進む集落でまちづくりを展開しながら、都市部住宅団地に居住するという二地域居住を通じた課題を探る。

報告4 新住民・二地域住民を受け入れる地域コミュニティの立場から

竹田 隆一 氏 コミュニティよしわ事務局長

「別荘所有者と地域住民との交流を通じたコミュニティ振興の課題」

○広島都市圏の別荘地として名高い廿日市市吉和地域における、新住民の現状と、新旧住民との交流活動から見た地域課題を探る。

意見交換・コーディネート (社)中国地方総合研究センター 企画部長 宮本 茂 氏



都市と田舎のどちらも楽しむライフスタイル すでに始まっています。

写真提供：広島県交流・定住促進協議会 ※写真はイメージであり、報告等の内容とは直接結びつくものではありません